

イーストスプリング・ インドネシア株式ファンド (資産成長型)

愛称：+ α インドネシア
(プラスアルファインドネシア)

追加型投信／海外／株式

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、主としてインドネシアの株式を投資対象とする投資信託証券に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。当作成対象期間につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜われますよう、お願い申し上げます。

作成対象期間 2023年7月31日～2024年7月25日

第1期 2024年7月25日決算

日経新聞掲載名：+ α ネシア

第1期末(2024年7月25日)

基準価額	9,558円
純資産総額	1,574百万円
第1期	
騰落率	△ 4.4%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

<https://www.eastspring.co.jp/>

【お問い合わせ先】

電話番号：03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧、ダウンロードすることができます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

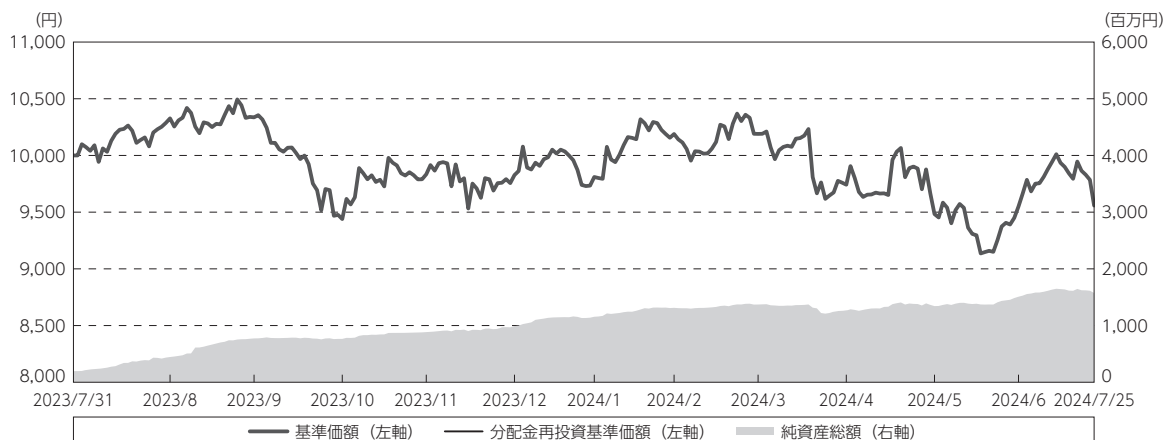
<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

ホームページにアクセス⇒「ファンド情報」を選択⇒ファンド名を選択⇒「目論見書・月報・運用報告書等」の「運用報告書(全体版)」を選択

運用経過

基準価額等の推移について

(2023年7月31日～2024年7月25日)



設定日：10,000円

期末：9,558円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 4.4% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドにおいては、運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

(注) 設定日の基準価額は設定時の価額です。

基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は下落しました。

(下落要因)

- ・投資対象ファンドを通じて保有する株式が下落したこと。

1万口当たりの費用明細

(2023年7月31日～2024年7月25日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	50	0.510	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(24)	(0.244)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(24)	(0.244)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	4	0.045	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(2)	(0.017)	海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(2)	(0.017)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷)	(1)	(0.009)	目論見書および運用報告書等の法定開示書類の作成費用等
(そ の 他 1)	(0)	(0.001)	信託管理事務に係る手数料
(そ の 他)	(0)	(0.000)	金銭信託に係る手数料等
合 計	54	0.555	
期中の平均基準価額は、9,893円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

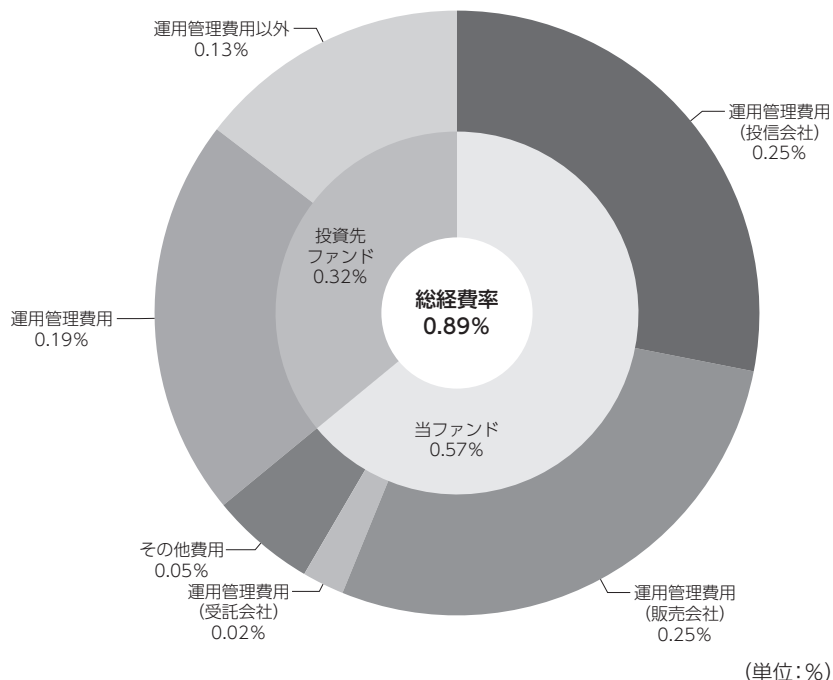
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.89%です。



総経費率(①+②+③)	0.89
①当ファンドの費用の比率	0.57
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.19
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.13

(注) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券です。

(注) ①の費用は、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について

(2019年7月25日～2024年7月25日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの設定日は2023年7月31日です。

	2023年7月31日 設定日	2024年7月25日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,558
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 4.4
純資産総額 (百万円)	196	1,574

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2024年7月25日の騰落率は設定当初との比較です。
 (注) 当ファンドにおいては、運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

投資環境について

インドネシア株式市場

当期のインドネシア株式市場は下落しました。米長期金利の上昇、米国の株式市場の調整などを背景にインドネシア株式市場は精彩を欠いた展開が続き、2023年10月に入るとインドネシアルピアが売り込まれる中、下落しました。しかし、10月後半にインドネシア中央銀行が通貨防衛を目指して予想外に0.25%の利上げを行ったため、インドネシアルピアはやや反発し、株式市場も値を戻す展開となりました。その後、米国の利下げ観測の高まりを受け、米長期金利が低下したことなどから、インドネシアルピアが堅調に推移する中、株式市場は上昇しました。しかし、2024年2月半ばから3月半ばにかけて大統領選挙後の材料出尽くしなどから株式市場は上値の重い局面が続きました。4月以降は、更に米長期金利が上昇し、インドネシアルピアが下落したことを受けて、4月24日にインドネシア中央銀行が予想外に政策金利を0.25%引き上げをし、その後株式市場は6月半ばにかけて下落基調をたどりました。期末にかけてはインドネシアルピアの反発を受け、株式市場は反発基調となりました。

為替市場

期初から2023年10月下旬にかけて、米国の政策金利が引き上げられる一方、インドネシア中央銀行が政策金利を据え置いたことや中国経済が不動産市況の悪化などにより低迷を続けたことなどを背景にインドネシアルピアは米ドルに対し、下落基調をたどりました。その後10月下旬にインドネシア中央銀行が通貨防衛のため、予想外に0.25%の利上げを行う一方、米長期金利が低下基調をたどったことから、インドネシアルピアは米ドルに対し底堅く推移しました。2024年の年明け以降は、米国の経済指標が予想以上に強かったことから米長期金利が上昇傾向に転じ、インドネシアルピアは対米ドルで軟調な展開となりました。3月～4月にかけて一段と米長期金利が上昇し、インドネシアルピアが下落基調をたどる中、4月24日にインドネシア中央銀行は通貨防衛のために政策金利を0.25%引き上げたことから一時、インドネシアルピアは対米ドルで反発しました。しかし、その後期末にかけてはインドネシアルピアは再び軟調な展開となりました。期中日本の実質金利が引き続きマイナスで推移したことなどから円安米ドル高が進み、インドネシアルピアは対円では小幅上昇で終わりました。

国内債券市場

国内債券市場は、2023年7月末の金融政策決定会合でイールドカーブ・コントロール（YCC）政策が柔軟化されたことや米国の長期金利が5.0%近辺まで上昇する中、10月末にかけて日本の10年国債利回りも連れて上昇（価格は下落）しました。その後米長期金利が低下する中、年末にかけて日本国債利回りも連れて低下（価格は上昇）しました。2024年の年明け後は、発表された米国の経済指標が好調であったことなどにより米長期金利が上昇したことから日本国債利回りも上昇し、さらに3月19日に日銀がマイナス金利政策の解除およびYCCの撤廃などを行った以降は、日銀の国債買い入れ減額や利上げへの思惑などから日本国債利回りは1%を超えて上昇しました。

■ ポートフォリオについて

当ファンド

主要な投資対象の一つであるイーストスプリング・インベストメンツ「インドネシア・エクイティ・ファンド クラス」(以下「インドネシア・エクイティ」ということがあります。)の組入比率を高位に保つよう運用しました。

インドネシア・エクイティ

主としてインドネシアの金融商品取引所に上場されている株式を主要な投資対象として、企業の本質的な価値を重視したバリュー投資を基本とし、ボトムアップ・アプローチに基づく銘柄選択により、中長期的な超過収益の獲得を目指した運用を行いました。当期は好調な貸出の伸びやクレジット費用の低下などからROE(株主資本利益率)が上昇したことなどを好感され株価が上昇したBank Mandiriなどの保有がプラスに寄与した一方、傘下のeコマースビジネスの過半の持ち分を売却したことなどを嫌気され株価が下落したGoto Gojek Tokopediaなどの保有がマイナスに寄与しました。

イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型I(適格機関投資家向け)

主としてデュレーションをコントロールすることによって、ベンチマークであるICE BofA 国債インデックス(1-10年債)を中長期的に上回ることを目指して運用を行いました。

■ ベンチマークとの差異について

当ファンドにおいては、運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留利益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 1 期
	2023年7月31日～ 2024年7月25日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	—

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針について

当ファンド

主要な投資対象のひとつであるインドネシア・エクイティの組入比率を高位に保つことを基本とします。

インドネシア・エクイティ

世界的に景気後退懸念が強まる中、インドネシアの長期的な見通しについては、人口動態の有利性や健全なマクロファンダメンタルズなどを考慮し、引き続き前向きに捉えています。2024年のインドネシアのGDPは、堅調な消費と輸出の伸びにけん引され前年比5%程度の成長を記録すると予想しています。足元の主要輸出品目は石炭やパーム油ですが、長期的には政府の川下産業強化の政策に沿ってニッケル加工品も加わることが予想されます。インドネシアの経常収支は構造的な黒字化に向かっており、通貨と債券利回りにとっては追い風になると考えています。株式市場の予想株価収益率は過去10年の平均値に比べて現在20%程度割安であり、新政権による財政支出拡大により株式市場の再評価が期待されます。一方、投資家のリスク回避姿勢の変化による通貨の乱高下などには注意が必要です。今後の状況を注視しつつ、市場の調整局面はファンダメンタルズが堅固な企業の株式を割安な水準で組み入れる好機と考えています。

イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型I(適格機関投資家向け)

今後もファンダメンタルズ分析、金利動向予測、イールドカーブ分析等を行いベンチマークであるICE BofA 国債インデックス(1-10年債)を中長期的に上回ることを目指した運用を行っていく所存です。

お知らせ

該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	無期限（2023年7月31日設定）
運用方針	主としてインドネシアの株式を投資対象とする投資信託証券に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	外国投資法人「イーストスプリング・インベストメンツ - インドネシア・エクイティ・ファンド クラスJ」の投資証券（米ドル建て）およびわが国の証券投資信託「イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型 I（適格機関投資家向け）」の受益証券（振替受益権を含みます。）を主要投資対象とします。
運用方法	<ul style="list-style-type: none">・インドネシアの株式を主要投資対象とする投資信託証券への投資比率は高位に維持することを基本とします。・外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
分配方針	毎決算時（毎年7月25日。休業日の場合は翌営業日。）に、配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等から、委託会社が信託財産の成長に資することに配慮し、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。

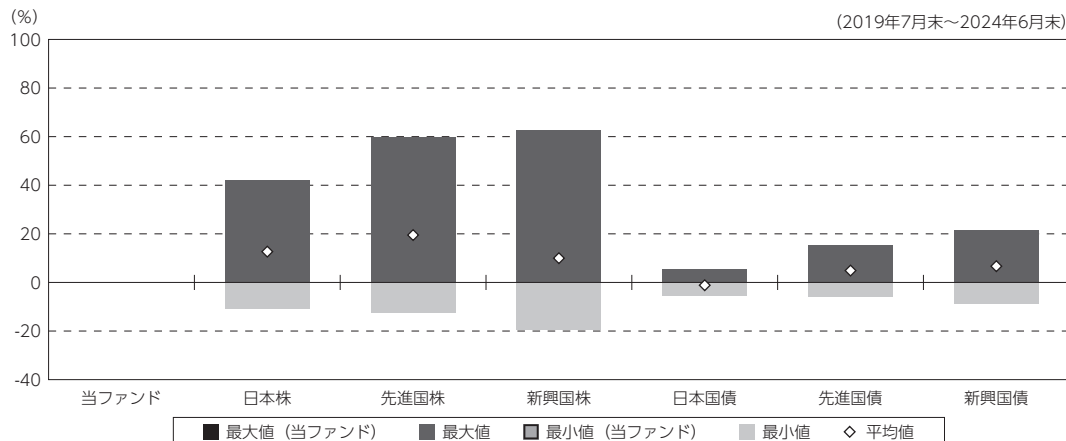
指数に関して

当ファンドの投資対象である「イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型 I（適格機関投資家向け）」のベンチマーク（ICE BofA 国債インデックス（1 - 10年債））について

ICEの指数データは、ICE Data Indices, LLC、その関係会社（以下「ICE Data」）及び／またはその第三者サプライヤーの財産です。ICE Data及びその第三者サプライヤーは、その使用に関して一切の責任を負いません。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	—	42.1	59.8	62.7	5.4	15.3	21.5
最小値	—	△ 10.8	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	—	12.7	19.5	10.0	△ 1.2	4.9	6.7

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2019年7月から2024年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドにつきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株：配当込みTOPIX

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

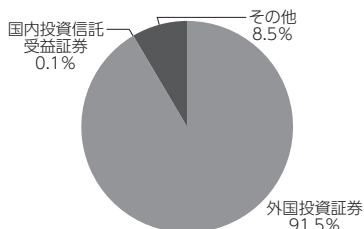
○組入上位ファンド

銘柄名	第1期末
	%
イーストスプリング・インベストメンツ - インドネシア・エクイティ・ファンド クラスJ	91.5
イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型I(適格機関投資家向け)	0.1
組入銘柄数	2銘柄

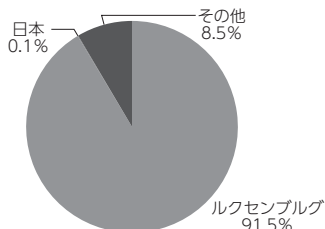
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

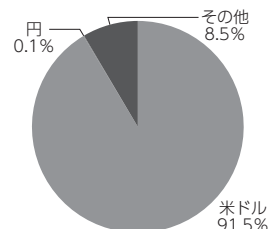
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

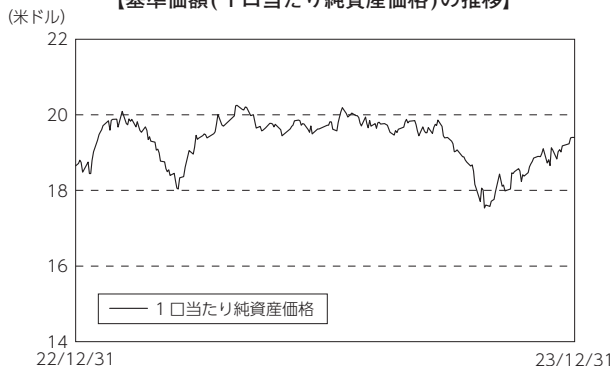
項目	第1期末
	2024年7月25日
純資産総額	1,574,661,954円
受益権総口数	1,647,535,731口
1万口当たり基準価額	9,558円

(注) 当期中における追加設定元本額は2,248,701,735円、同解約元本額は797,948,264円です。

組入上位ファンドの概要

イーストスプリング・インベストメンツ - インドネシア・エクイティ・ファンド クラスJ

【基準価額(1口当たり純資産価格)の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2023年1月1日～2023年12月31日)

当該期間のAnnual Report (監査済み) には、1万口当たりの費用明細が開示されていないため、記載できません。

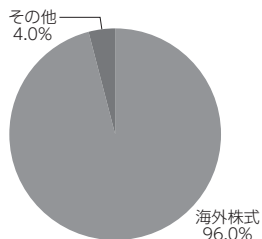
以下は、イーストスプリング・インベストメンツ - インドネシア・エクイティ・ファンドの内容です。

【組入上位10銘柄】

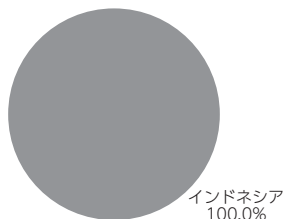
(2023年12月31日現在)

	銘柄名	業種	国・地域	比率
1	バンク・ラヤット・インドネシア	銀行	インドネシア	10.0%
2	バンク・マンディリ	銀行	インドネシア	9.8%
3	テルコム・インドネシア	電気通信サービス	インドネシア	9.6%
4	バンク・セントラル・アジア	銀行	インドネシア	7.8%
5	バンクネガラインドネシア	銀行	インドネシア	5.0%
6	スンブル・アルファリヤ・トリジャヤ	生活必需品流通・小売り	インドネシア	4.6%
7	ムルデカ・コッパー・ゴールド	素材	インドネシア	4.1%
8	カルベ・ファルマ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	インドネシア	3.9%
9	セメン・インドネシア	素材	インドネシア	3.8%
10	チャルーン・ポーカパン・インドネシア	食品・飲料・タバコ	インドネシア	3.7%
	組入銘柄数		25銘柄	

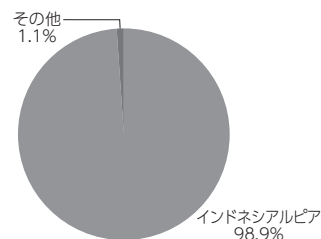
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



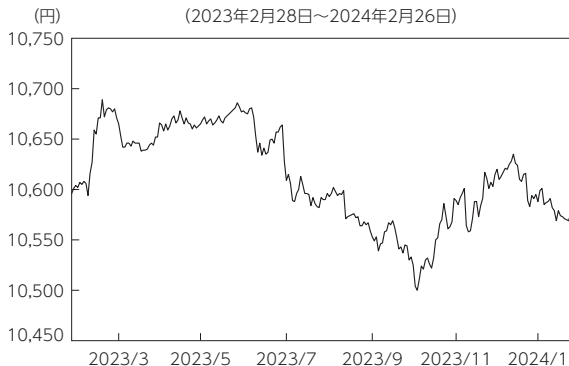
(注) 組入ファンドのデータは、当社で入手可能な時点のもの (監査済みおよび同時点の関連データを含む) を使用しています。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型Ⅰ（適格機関投資家向け）

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2023年2月28日～2024年2月26日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) 信 託 報 酬	23	0.219
（ 投 信 会 社 ）	(15)	(0.143)
（ 販 売 会 社 ）	(2)	(0.022)
（ 受 託 会 社 ）	(6)	(0.055)
(b) そ の 他 費 用	2	0.014
（ 監 査 費 用 ）	(2)	(0.014)
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)
合 計	25	0.233

期中の平均基準価額は、10,610円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2024年2月26日現在)

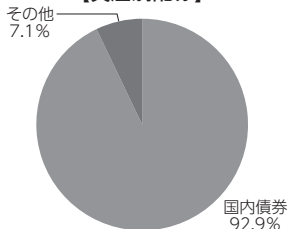
	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 (地 域)	比 率
1	第359回利付国債(10年)	国債	円	日本	23.9
2	第91回利付国債(20年)	国債	円	日本	19.8
3	第117回利付国債(20年)	国債	円	日本	11.9
4	第354回利付国債(10年)	国債	円	日本	8.1
5	第87回利付国債(20年)	国債	円	日本	8.0
6	第351回利付国債(10年)	国債	円	日本	6.9
7	第67回利付国債(20年)	国債	円	日本	6.2
8	第80回利付国債(20年)	国債	円	日本	5.4
9	第75回利付国債(20年)	国債	円	日本	2.8
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数				9銘柄	

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

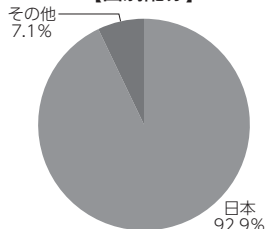
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

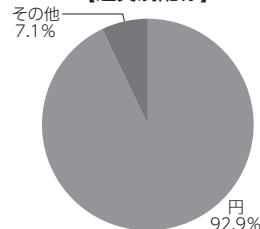
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○配当込みTOPIX

配当込みTOPIXは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、配当込みTOPIXの指数値及び同指数に係る標章又は商標は、株式会社J P X総研又は株式会社J P X総研の関連会社の知的財産です。

○MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。